教団新報

定　価　1部150円（本体137円〒共214円）
予約購読料　1年分　〒共　5,350円
紙代のみ　3,750円
振替 00140―9―145275
本紙を購読ご希望の方は、前金をそえて、お近くのキリスト教書店へお申し込み下さい。
教会の購読料は負担金に含みます。

発行所　日本基督教団
169-0051　東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館内　電話03（3202）0546
FAX03（3207）3918
URL http://uccj.org
発行人　秋山　徹
編集主筆　嶋田恵悟
印刷所　株式会社きかんし

2議案とも継続審議に

第41総会期

常議員会

第12回臨時

教団総会開催方法、7月に決定

第41総会期第12回常議員会（臨時）が、開会時常議員27名が出席して行われた。「第42回教団総会開催方法に関する件」、「出版局に関する件」について審議した。

総会開催方法に関する件では、冒頭、教団総会準備委員会の願念望委員長が、3月26日に行われた委員会の報告をした。開催方法について、(A)池袋ホテル会場と17教区の会場をオンラインでつなぐ、(B)池袋ホテルで別会場を設けてオンラインでつなぐ、(C)教団事務局あるいは都心の教会と17教区の会場をオンラインでつなぐとの3案について議論したこと、3案の他に、書面開催にすべきとの意見があったことなどを報告した。

次に、道家紀一総務幹事が、開催方法のシミュレーションを費用の明細書を提示しつつ説明した。ホテルで、会場を二つに分けて開催した場合、基本的な経費1586万円の他、2会場をつなぐ費用637万円、PCR検査費用1000万円程がかかる。議員の半分がホテルに集まり、17教区の会場をオンラインでつなぎ、半分がオンラインで出席した場合、ホテル代1456万円の他、ネットワークシステム構築で2200万円程かかる。ホテルをキャンセルし、事務局と17教区の会場をつないだ場合、システム構築の2200万程になる。ホテルのキャンセル料は、7月20日までであれば300万円程。

質疑の中で、「各議員と教団事務局をつなぐことは検討したのか」との問いがあり、道家総務幹事は、「同じ環境を整えるため、各議員に均等のパソコンを貸与した場合、一台当たり2万円程になる」と応じた。

また、オンライン開催の場合の選挙方法が問われた。道家総務幹事は、宗教法及び宗教経営研究所の櫻井圀郎所長の意見書（櫻井文書）に基づき、「一律に、事前の郵便投票によるものとするほかない。ただし、再投票を行うことは不可能。重複して当選する者がいた場合は、辞退すれば良い」と述べた。

システムの構築は恒常的に利用できるものなのかが問われ、道家総務幹事は、一回限りのものであると応じた。このことに関連し、「コロナが常態化する可能性があり、恒常的に分散会議が出来る形を整えるべき」との意見があった。

教区を代表して出席している陪席者からは、「東京から帰ると、数週間の自粛生活を求められる」、「同一の教区内でも集まるのが難しい」等、書面開催を求める意見が多く出された。一方で、選挙を対面で行うことの重要性を指摘し、PCR検査等の対策を施した上で通常開催することに賛成する意見もあった。

道家総務幹事は、書面開催について、櫻井文書に基づき、非常事態における緊急対応として、一般法人における書面会議を、議員の承諾を得ることを要件として類推適用する余地があるとの立場を紹介した。

石橋秀雄議長は、ワクチンの接種等の社会的状況を見つつ最終的には7月の常議員会で判断したいとの考えを述べた。雲然俊美書記は議案を上程、「教団総会を2021年10月26～28日、池袋ホテルメトロポリタンにて二会場に分かれ、両会場を繋いで開催する」と提案した。久世そらち副議長は、今常議員会での意見や示唆を踏まえて、7月の常議員会に向けて、修正提案が準備されると想定していると述べ、提案の背景について、「密になる形での開催は避けなければならない。オンラインには高額な費用がかかる。書面開催では選挙が難しく、任期の延長を伴う提案をすることになり、三役として、それは避けたかった」と述べた。

これを受けて、「書面開催も選択肢の一つとして、7月の常議員会に出してほしい」、「再投票も含めた郵便投票の方法について検討してほしい」との意見があった。

石橋議長は継続審議を提案し、賛成多数で可決した。

（新報編集部報）

お知らせ

「教団新報」今号を4950・51合併号とし、次号は6月26日に発行します。

総幹事　秋山　徹

出版局

経営監視チーム設置、賛否同数で継続

出版局に関する件は、まず2020年度の財務概況予測が大谷理経理課長より報告された。それによると売り上げ総利益はコロナ禍の影響で19年度比411万2010円の減少となった一方、人件費を中心とした販管費の削減により、営業利益は19年度に比べて赤字幅を2024万円ほど減らして1169万円の赤字となった。最終的な当期純利益は165万6893円となる。

続く理事長報告で山北宣久理事長は、単年度黒字を達成したことで「最悪期を脱しつつあると判断できそうであると考えられるのではないかと理解している」と述べた。さらにこの黒字が職員の人件費削減、とりわけ管理職の給与上乗せ分（基本給の15％）の返上という負担を強いての結果であるとして謝意を表した。石橋秀雄議長は「まず職員の側が危機意識をもって自ら夏季賞与の10万円への減額を申し出たのが出発点だと認識するのが重要」と述べ「21年度も同様に犠牲を求めるのか」と質した。飯光局長代行は「よい職場環境のためにもこれ以上の犠牲を強いることのないよう計画を立てている」と答えた。

次に21年度の事業計画について飯局長代行は、黒字決算を目指すこと、経営改善検討チームの加藤真澄コンサルタントによるデューデリジェンス報告書に基づく作業手順の見直しに取り組むこと、日キ販を通さない直接取引による販路拡大を図ること等を説明した。

続く理事会報告に対しては、職責手当を6万円（課長、心得は5万5000円）に増額する決定に意見が出た。秋山徹総幹事は「管理職の給与上乗せ分をカットした結果、管理職には残業手当が支払われないため職員の賃金が上回るようになった。その格差を是正するため」と理由を説明。飯局長代行は「管理職の職責への報酬として妥当な金額」との、給与に関する小委員会による議論の結果であると述べた。また一般職員の21年度の給与については労働組合と協議中であるとした。

この後に三者協議会の報告を経て「出版局の運営及び財政上の諸課題に対する出版局経営監視チームを責任役員会の下に設置する」議案が上程された。提案理由として雲然俊美書記は「事業デューデリジェンス報告書によって、責任役員会が教団の資産管理に責任を担う立場として出版局経営に適切な関わりを持ってこなかったこと、理事会の管理のあり方に問題があったことを認識した。そこで責任役員会が理事会に適切な勧告・指導をして経営改善に取り組むため」と説明した。また「監視とは経営実務に対するもので、理事会とはあくまで協力関係だ」と強調。一方で「出版局の管理責任は教規上理事会にあり、責任役員会の下にチームを設置することは超法規的措置である」と述べた。

議場からは「宗教法人法が求める責任役員会ではなく、教規に基づく常議員会の下に置くべき」、「責任役員は常議員の中から選ばれる。単独で動くことはない。財産管理に関わるので責任役員会の下でよい」、「理事を交代するなどして理事会が取り組むべき」など本チームの位置付けに関する発言が相次いだ。

山北理事長は「超法規的な形でこのようなチームを作られて、理事長として暗然としている。とても協力関係ができるとは思えない」、飯局長代行も「理事会メンバーである自分が監視チームに含まれていることに困惑している」と述べた。

この議案ではチームの位置付けが曖昧であり、理事会との信頼関係も損なわれているとして継続審議とする動議が議場から出た。動議を採決した結果、出席常議員28名中14名の賛成で賛否同数となったが、これまでの議論を踏まえ議長裁決で継続となった。本件については可及的速やかに臨時常議員会を招集して再度審議することになった。

（米山恭平報）

月刊『こころの友』文書応援伝道お申し込みのご案内

応援側の教会（個人）が伝道委員会を通して献金し、受入教会が毎月『こころの友』を受け取り、伝道に用います。日本伝道のための地道で貴重な働きです。応援教会（個人）も、受入教会（経済的に困難な教会）も、積極的にお申し込み下さい。献金は1口1,000円。22年度分申し込み締切は2022年2月末日（21年度分は既に終了）。

【お申し込み・お問い合わせ】
伝道委員会　TEL:03-3202-0544
E-mail:kokoronotomo@uccj.org

新型コロナウイルス
感染拡大の渦中で

宣教師たちの声に聞く

アメリカ《ウェスレー合同メソジスト教会》

困難の中に豊かに働かれる神

ホームレスの方々への食料配布
タブレットミニストリーを利用する教会員

米国カリフォルニア州では昨年3月、新型コロナウイルスの集団感染を避けるための厳しい規制が出され、全ての教会が建物内での礼拝を禁止され続けるため、私たちの教会ではインターネットを用いたライブ動画配信と共に、シニアの方々にはDVDの発送や、簡単な操作で礼拝にアクセスできる端末機の貸し出し、またそのサポートを行う「タブレットミニストリー」を開始しました。結果、思いもかけず、外部との接触を絶たれた施設の方々や、同じ米国内の日本語礼拝を守れない教会の方々とも、共に礼拝を守れるようになりました。その方々の喜びの声を聞く時に、私たちの「礼拝への飢え渇き」を主が顧みてくださり「霊と真実に満ちた礼拝」へと導いてくださっていることを覚えます。

家賃が全米一高額なこシリコンバレーでは、狭い家に数家族が住んでいる状況があります。このコロナ禍にあって親の失業、学校の閉鎖により家庭でのトラブルやストレスも増え、大きな苦悩を負う生活困窮者が増えました。また、野宿者の方々は支援活動の停滞や公共施設の閉鎖により命の危機にさらされるなど、社会的弱者に歪みが押し寄せていることを痛感しています。

その中、私たちの教会は新しい食料提供プログラムを立ち上げました。この活動には沢山の物資と献金が寄せられるようになり、それを少人数で毎週200名を超える方々に配布することが出来ています。医療従事者や公的サービスを担うエッセンシャルワーカーと同じく、教会に集う私たちもまた、地域の方々の苦難に寄り添い、霊的なニーズに応えて働くエッセンシャルワーカーであることを覚えて活動を続けています。

困難の中に豊かに働かれる神は、聖霊の力をもって、それぞれの家庭や施設で守る礼拝に恵みを備えられ、リスクや限界を覚える私たちに新しい知恵と力を与えてくださり、私たちを社会へと押し出して下さっています。

変化する世の中にあっても主は変わらず私たちを礼拝で養い、この社会で用いようとしておられることを信じ、希望を持って共に宣教の働きを続けていきたいと願っています。

（山本　一報）

パラグアイ《ピラポ日系教会》

コロナ禍のピラポ教会

イースター礼拝後に
（左から３人目が筆者）

コロナウイルスの流行が2年目に入りました。昨年3月に外出や集会の禁止令が発せられた時には感染者は一日数人でしたが、今では毎日2000人を超えています。病床がなく廊下の椅子に寝かされている病人の写真や、高価な薬のために家を売った人の話が聞こえてきます。

その中で、昨年6月の集会禁止解除後は毎週礼拝を守り、毎月の聖餐にも与かってきました。

礼拝出席は数人ですが、牧師が感染すれば礼拝できなくなりますから、この1年ほとんど外出せず、週に一度の買い物以外は教会の敷地内で暮らしています。そして、家や庭の仕事をしながら、神様はこの暮らしを通して何を教えようとしておられるのか思い巡らしています。

教会員の一人は86歳でこの1年間ずっと家にいます。週に一度の礼拝出席だけが唯一の外出で、唯一の生き甲斐とも言えるでしょう。ただ礼拝にすがって生きるとはなんと素晴らしいことでしょう。

受難週は旅行者増加のため規制が厳しくなって心配しましたが、今年は2年ぶりに復活祭の礼拝を守ることができました。

昨年10月の国際線再開後、この復活祭明けの帰国便を予約しました。ところが、数回の時刻変更を経て一部が欠航になり、帰国できなくなりました。予約後、日本も、経由地のブラジルも入国時のコロナ陰性証明書を求めるようになりました。搭乗前72時間以内の検査が必要なので、アスンシオンの検査機関に問い合わせ、ピラポ出発時刻を計算し、あれこれ考えて夜も眠れませんでした。それが、帰国を諦めたとたん、すべての思い煩いが消え、心が平安に満たされました。その時、心から感謝しました。

その後、これは、「礼拝を続けなさい」という神様からのメッセージだと気が付きました。今すべきことは帰国ではなく、ここにとどまってみ言葉を語ることなのだと思ったのです。

昨年の一時帰国後、こちらに戻るのが少し遅かったら入国できなかったでしょう。あの時入国できなかったら、1年近く戻れませんでした。全てが守られて無事着いたことを思い起こすと、神様が礼拝を守るためにここに遣わしてくださったことに改めて思い至りました。

最もふさわしい時に帰国できると信じつつ、礼拝を守り続けていきます。

新型コロナウイルスに対する教会の様々な対応について近況報告をしていただければ幸いです。また、この状況をどのように受け止め、向き合って行くか、意見や提言を自由に寄せてくださいますようお願いいたします。試練の中にある世界中の教会が励まされ、また、この状況を信仰的に受け止めて行く時の視座を与えられれば幸いです。

（江原有輝子報）

フィリピン《メトロボホール教会》

礼拝を続けるという選択

教会での礼拝と家庭礼拝

フィリピンでは、コロナ禍最初の半年は様々な規制が厳しくなり、あらゆるものが閉鎖、多くの教会も影響を受けた。が、私たちの教会は家の教会形式で大きな会堂がないのも幸いし、集会を続けるという選択をすることができた。それでも警察が注意に来たり、いつ逮捕されるかしれないという緊張を強いられた日々ではあった。礼拝を続けることにはしたけれど、人は来ないかもしれないと思っていた最初の聖日、緊迫した面持ちで集まって来たたくさんの教会員たちがいた。困難な中で礼拝を選んでやってきた一人一人を抱きしめ、地下教会のように切実な、特別な思いで礼拝をささげた。

礼拝を安全に続けるため、モニターを導入して部屋数を増やし、礼拝数も3回に増やし、さらに場所を広げるために改築もした。それでもなぜかまだ毎回いっぱいに。

すでに10ヶ所はどあった家庭集会も、（家庭での集会は許可されていたにも拘らず）近所の人々から石を投げられたり脅されたりということもあったが、教会員はめげずに「主の御業にロックダウンはない」と伝道し続けた。現在は18の家庭と2ヶ所の工事現場で毎週家庭集会がもたれている。

支援活動もした。経済的に困窮し絶望しかけていた人々も生き延び、福音の光を見るようになった。

また、学校がなく日がな一日遊んでいる子供たちを見て、中高生たちが「今こそこの子たちのために何かしなければ」と心を動かされ、子供伝道が多くの場所で花開いた。学校はやがて再開したが登校はせず自宅学習のみ。教室での友達や先生とのふれあいがなくなってしまった分を、教会が補っている。

現在は多くの教会やお店も再開し、ほぼ平常通り。けれどもこの平常の「特別さ」を心に刻んでいる。

（ベルトラン小川文子報）

ドイツ《ケルン・ボン日本語キリスト教会》

点から線へ

主のお導きと共に多くの方々のお支えによって、ケルンに立てられている日本語教会にお仕えして6年目を迎えました。ドイツの地での「限りあるかけがえのない時」ということを、赴任当初より念頭において歩んでおります。しかしこの思いがコロナ禍の今、焦りとなり重荷となりました。

教会の存在を知っていただくために、人との繋がりを求めてこの世へ出て行き、福音の種蒔きをしています。知り合った方と一緒にお茶を飲むことも伝道の一つです。しかし、ドイツではロックダウンの延長が繰り返され既に半年になろうとし、コロナ感染防止のために他人との接触は一人のみ、という厳しい規制の只中にあります。なす術もなく、時だけが過ぎてゆくような焦燥感に駆られました。

しかし、この感情は昨年からのコロナ禍の中で、何とか乗り越えて成果を出さねば…、という私自身の傲慢さを、祈りの内に気づかされました。この時を、そして歴史を支配しておられるのは主であり、主が全てをおさめてくださることを忘れ、自らの力に頼り何かできると思ってしまったのです。生きて働かれる主の御業を忘れていました。

ですから、どのような時であれ、今、なすべきことは、与えられた一日一日を、これまで通り、主の御声をお聴きしながら淡々とお従いしていくこと、そうして「点」のような毎日を、やがて主が繋ぎ合わせてくださり、「線」となって未来が創られる、ということに心を向けられた時、平安と希望が与えられました。

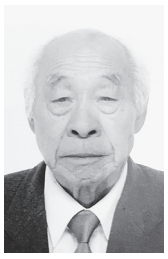
現在、礼拝をはじめとして、聖書の学び、未信者の方々の集会等、全てスカイプにて行っており、毎回ではありませんが、幸いにも教会の全ての方が参加できています。そしてオンライン上で以前よりも密な交わりを実感でき感謝しております。現住陪餐会員が14名の小さな群れの特権でもあります。

これから先のことは主にお委ねし、日々の「点」を淡々と地道に積み重ねていくことが、今、できる精一杯のことだと思わされています。「ごく小さな事に忠実な者は、大きな事にも忠実である。ごく小さな事に不忠実な者は、大きな事にも不忠実である」（ルカによる福音書16章10節）。この御言葉に支えられて歩んで参りたいです。

（佐々木良子報）

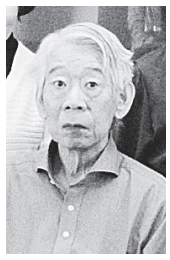
事務局報

吉野　結（川和教会担任教師）
21年3月10日逝去。19年農村伝道神学校卒業。同年より川和教会を牧会。



森　武夫（無任所教師）
19年10月14日逝去、82歳。愛知県生まれ。72年東京神学大学院卒業。79年より千歳船橋、八王子栄光教会を牧会。遺族は息・森勇人さん。

鈴木賛美（愛隣教会主任担任教師）
21年3月14日逝去、55歳。大分県生まれ。04年東京神学大学大学院卒業。同年より経堂北、愛隣教会を牧会。遺族は姉・三宅美則さん。



柏井宣夫（隠退教師）
21年3月29日逝去、81歳。愛知県生まれ。65年東京神学大学大学院卒業。同年より茨木、碧南教会を牧会し、農村伝道神学校に務め、まぶね、青山町、鹿島栄光教会を経て10年隠退。遺族は妻・柏井雅子さん。

補教師登録
南宮成一、藤盛純子

（2021・4・26受允）
正教師登録
表見　聖、田中浩一郎
星野　香
（2021・4・3受按）
教師異動
釧路　辞(主)青砥好夫
札幌　辞(代)米倉美佐男
三里塚　辞(主)野村和正
桜本　辞(主)鈴木文治
鷹巣　辞(代)中西絵津子
脇本　辞(主)中西絵津子
〃　辞(担)森田聖子
〃　就(主)森田聖子
〃　就(担)中西絵津子
本庄　辞(主)疋田國磨呂
〃　辞(担)疋田義也
〃　就(主)疋田義也
〃　就(担)疋田國磨呂
大泉ベテル
就(主)明星　晃
大宮前　辞(主)内田　汎
〃　就(主)山本隆久
〃　就(担)山本英美子
国分寺　辞(主)願念　望
〃　就(代)上林順一郎
野方町　辞(主)高橋敏通
〃　就(主)池谷明高
淀川　辞(代)小西　望
〃　就(主)高橋敏通
馬見労祷
辞(代)木ノ脇悦郎
〃　就(主)飯塚共生
二宮　就(担)小林　充
長野県町辞(主)森本裕子
〃　辞(担)森本玄洋
〃　就(主)森本玄洋
〃　就(担)森本裕子
伊那坂下辞(主)加藤智恵
〃　就(代)柳谷知之
米沢　辞(代)波多野保夫
〃　就(主)加藤智恵
岩沼　辞(代)瀬谷　寛
〃　就(主)平賀真理子
浪江　辞(代)保科　隆
〃　就(代)飯島　信
小高　辞(代)保科　隆
〃　就(代)飯島　信
碧南　辞(代)大住共平
〃　就(兼主)大住共平
若草　辞(主)勇　文人
〃　就(主)山本正人
富山二番町
辞(主)上田　創
〃　就(主)勇　文人
新津田沼辞(代)岸　憲秀
〃　就(主)上田　創
伊丹　辞(代)西澤他喜衛
〃　就(主)春名康範
広石　辞(主)佃　克巳
〃　辞(兼担)佃　真人
〃　就(兼主)佃　真人
淡路三原
辞(兼担)佃　克巳
関西学院
辞(担)小豆真太郎
春日東辞(代)青木麻里子
〃　就(主)小豆真太郎
遠州栄光辞(主)山本克三
〃　辞(担)江間紗綾香
〃　就(主)星野　健
杵築　辞(主)工藤俊一
〃　就(主)山本克三
世田谷平安
辞(代)北川正弥
〃　就(主)江間紗綾香
番町　辞(主)内山　宏
〃　辞(担)大谷昌恵
〃　就(主)柳下明子
目白　就(担)大谷昌恵
喜音　辞(主)確井英俊
〃　就(主)太田恵理
〃　就(担)湯木洋一
原宿　辞(担)佐藤嘉哉
甲東　辞(担)西澤他喜衛
須磨　就(主)西澤他喜衛
曽根　辞(代)奥村益良
〃　就(兼主)西澤他喜衛
〃　就(担)佐藤嘉哉
大船　辞(主)松下道成
〃　就(主)難波信義
田園江田就(担)山野　心
鎌倉泉水辞(主)片岡宝子
〃　就(主)櫻井重宣
東中通　辞(主)福井博文
〃　辞(担)平向倫明
〃　就(主)片岡宝子
筑紫　辞(兼主)松谷洋介
〃　就(主)平向倫明
港南希望辞(主)鈴木義嗣
〃　就(代)鈴木淳一
女子学院中学高校
辞(教)魚屋義明
東大和　辞(主)田名　希
〃　就(主)平野芳子
流山　就(担)田名　希
目白　辞(担)今野　瑛
東金　辞(主)中村征一郎
〃　就(主)今野　瑛
新島学園短大
辞(教)山本有紀
南甲府　辞(主)高津　俊
〃　就(主)大木正人
遠州栄光辞(主)山本克三
〃　辞(担)江間紗綾香
〃　就(主)星野　健
杵築　辞(主)工藤俊一
〃　就(主)山本克三
世田谷平安
辞(代)北川正弥
〃　就(主)江間紗綾香
番町　辞(主)内山　宏
〃　辞(担)大谷昌恵
〃　就(主)柳下明子
目白　就(担)大谷昌恵
喜音　辞(主)確井英俊
〃　就(主)太田恵理
〃　就(担)湯木洋一
原宿　辞(担)佐藤嘉哉
甲東　辞(担)西澤他喜衛
須磨　就(主)西澤他喜衛
曽根　辞(代)奥村益良
〃　就(兼主)西澤他喜衛
〃　就(担)佐藤嘉哉
大船　辞(主)松下道成
〃　就(主)難波信義
田園江田就(担)山野　心
鎌倉泉水辞(主)片岡宝子
〃　就(主)櫻井重宣
東中通　辞(主)福井博文
〃　辞(担)平向倫明
〃　就(主)片岡宝子
筑紫　辞(兼主)松谷洋介
〃　就(主)平向倫明
港南希望辞(主)鈴木義嗣
〃　就(代)鈴木淳一
女子学院中学高校
辞(教)魚屋義明
東大和　辞(主)田名　希
〃　就(主)平野芳子
流山　就(担)田名　希
目白　辞(担)今野　瑛
東金　辞(主)中村征一郎
〃　就(主)今野　瑛
新島学園短大
辞(教)山本有紀
三軒茶屋
辞(担)北川美奈子
金城学院中学高校
就(教)北川美奈子
金城学院中学校
辞(教)後藤田典子
同志社大学神学部
辞(神)水谷　誠
同志社中学高校
辞(教)木村良己
紫野　就(担)木村良己
北白川　辞(代)大島純男
〃　就(代)飯島　信
同志社　辞(主)望月修治
〃　就(代)望月修治
京都　辞(担)松田直樹
〃　辞(担)松田　祈
〃　辞(担)西原ももこ
城陽　辞(主)信岡茂浩
〃　就(主)松田直樹
〃　就(担)松田　祈
同志社国際中学高校
辞(教)山本真司
〃　就(教)西原ももこ
京都教区辞(巡)横田法子
〃　就(巡)堀江有里
草津　辞(主)奈良誉夫
〃　就(主)横田法子
〃　就(担)奈良誉夫
洛陽　辞(代)入　順子
〃　辞(担)桝田翔希
〃　就(主)松下道成
尼崎　辞(代)近藤　誠
〃　就(主)桝田翔希
八幡ぶどうの木
辞(主)柴田信也
〃　就(代)千葉宣義
兵庫　辞(主)涌井　徹
〃　就(主)柴田信也
西宮　辞(主)中島正勝
〃　就(代)奥村益良
千里聖愛辞(主)川江友二
〃　就(主)中島正勝
玉島　辞(代)阪西恵理子
〃　就(主)三浦きょうこ
〃　就(担)高津　俊
藤崎　辞(主)川上純平
〃　就(代)多勢　眞
太田八幡辞(主)矢吹大吾
〃　就(代)川上　盾
和戸　辞(代)最上光宏
〃　就(主)佐藤　進
〃　就(担)佐藤さゆり
安中　辞(主)江守秀夫
〃　就(代)原　誠
新生　就(主)江守秀夫
〃　辞(主)平井克也
刈谷　辞(主)平井克也
〃　就(代)柳本秀良
川崎　辞(主)滝澤　貢
〃　就(主)平井克也
四谷新生辞(代)古賀　博
〃　就(主)滝澤　貢
各務原辞(担)川上野ゆり
蘇原　辞(主)日高伴子
〃　辞(担)志村　真
直方　辞(主)鈴木重宣
〃　就(主)日高伴子
〃　就(兼担)志村　真
飯塚　辞(代)鈴木重宣
〃　就(主)志村　真
〃　就(兼担)日高伴子
下関彦島辞(主)中島　純
〃　就(代)餅原研一
徳之島　辞(代)本多香織
〃　就(主)中島　純
西仙台　辞(担)竹花牧人
阿久根
辞(兼主)戸田奈都子
〃　就(主)竹花牧人
八代　辞(主)中山　実
〃　就(代)日下部遣志
北九州復興
就(担)富山希望
市川三本松
就(担)矢吹大吾
田園江田
辞(担)田中浩一郎
秦野　辞(主)堀　光雄
〃　辞(担)堀　雅子
〃　就(主)田中浩一郎
有田　辞(代)末瀬喜美子
〃　就(主)工藤俊一
伊万里辞(代)末瀬喜美子
〃　就(兼主)工藤俊一
明治学院高校
辞(教)佐原光児
桜美林大学
就(教)佐原光児
白鷺　辞(代)古屋治雄
〃　就(主)願念　望
中京　辞(主)松本　周
〃　辞(担)松本のぞみ
〃　辞(担)金　承哲
〃　就(代)小林　光
中部教区就(巡)金　承哲
京都就(兼担)西原ももこ
同志社中学高校
就(教)川江友二
大和キリスト
辞(担)鄭娜晤美
田浦　辞(主)持田行人
〃　就(主)鄭娜晤美
熊本城東辞(担)杉森將興
七里　辞(主)小林則義
〃　就(代)最上光宏

教師隠退
青砥好夫、米倉美佐男、福井博文、野村和正、内田　汎、並河光雄、鈴木文治、鳥飼慶陽、鳥飼トモ子、佃　克巳、中山弘隆、魚屋義明、大島純男、堀　雅子、堀　光雄

隠退より復帰
明星　晃、上林順一郎、春名康範、櫻井重宣

教会解散
秦野西

キリスト教教育主事異動
千里聖愛　辞　吉田七穂

お詫び・訂正
教団新報4948・49号1面最終行、筆者肩書き「関西学院大学神学部長」を「関西学院大学神学部」に、お詫びして訂正いたします。

伝　道　報　告

伝道のともしび TOMOSHIBI

七十二人は喜んで帰って来て、こう言った。…イエスは言われた。「あなたがたの名が天に書き記されていることを喜びなさい。」
ルカによる福音書第10章17節～20節

女性と子どもが安心して生きられる社会の実現をめざして

公益財団法人日本キリスト教婦人矯風会 理事長／溝ノ口教会牧師　**飯田　瑞穂**

１８８６年、禁酒運動が米国から紹介され56人のキリスト者女性たちが矯風会を設立しました。創始者の矢島楫子は夫の酒乱と暴力の被害者です。しかし、日本の女性にとって酒害以上に深刻だったのが、重婚と貧困女性の売買春を国が公然と認めていた公娼制度でした。一夫一婦制を求める請願、廃娼運動、廃業する女性を匿い会員の力で施設を作り自立の支援活動をし、婦人参政権も求めます。廃娼運動は、現在の婦人保護事業の礎ともなり、社会福祉法人となった矯風会関連施設が今も全国に数カ所あります。「運動と福祉は車の両輪」の精神が矯風会に培われました。

１９８６年、国籍を問わない緊急一時保護施設「女性の家ＨＥＬＰ」（所在地非公開）の運営が始まります。アジアの出稼ぎ女性が性的搾取に遭ったバブル期。国内外の献金に支えられ女性の駆け込みセンターになりました。現在は行政を経由し入所できますが、民間シェルターへの国の財源援助は充分でなく、寄付に大変助けられています。ＤＶ、貧困、居所なし、障がい、暴力等複合的問題を抱える女性や母子。日本人の利用が多く年齢も様々。原則２週間に心身を休めてもらい、次の支援へつなぎます。

神学生交流会で、
広報誌「k-peace」（旧婦人新報）の紹介

コロナ禍でＤＶが増加しました。失業や収入減。ネットカフェなどから追い出された女性たちも安全な場所を失いました。女性の家ＨＥＬＰでは、他に行く所のない女性たちのために入所制限せず、ほぼ満室状態が続きます。電話相談につながる不安や憤りの声、外国語での相談も増えました。相談できずにいる女性がどれだけいるでしょう。

困窮する女性への性搾取や性暴力があとを絶たない中、精一杯生き抜こうとされている方々が福祉に繋がってほしいと願います。

矯風会は「女性と子どもが安心して生きられる社会の実現」をめざし、人権と福祉を二つの柱にして活動しています。憲法改悪反対、脱原発等を訴え続けています。また、性暴力や性搾取等の根絶の取り組みから「児童買春・ポルノ禁止法」の第三次改正を要望中です。アディクション（アルコール等の依存症）の相談事業も行っています。２月は「神学生交流会」に神学生をお招きし、宣教の現場で役立つミニ講座を提供します。ＤＶやアディクションなど家族の問題で悩む方がおられたら教会だけで抱えず、福祉事務所や専門の支援機関に繋ぐようお伝えしています。家族の体裁や社会の目は女性に厳しく、依存症の女性は幾重にも生き辛さを負わされており心が痛みます。女性の視点を大切にした支援をめざしています。

力の支配や性的役割分担で抑圧された社会でなく、多様な生き方を認め合う寛容な社会なら誰にとっても生き易いはずです。私には、国に犠牲を強いられる沖縄や福島が、弱くされている女性や子どもと重なって見えます。女性の視点を生活の中に、政治の中にと願います。矯風会の働きをお支えください。また、矯風会をご活用ください。

◎「女性の家ＨＥＬＰ」月～金（℡０３－３３６８－８８５５）
女性のための電話相談
◎「矯風会」月～金（℡０３－３３６１－０９３４）アディクション相談
◎URL https://kyofukai.jp

▼信仰職制委員会▲
東北教区からの諮問に答申

第６回、第７回信仰職制委員会が、３月８日、４月14日に、オンラインにより開催された。全委員出席で、陪席は総幹事、担当幹事、担当職員（ただし第７回は総幹事は欠席）。

第７回委員会では、前回委員会の継続審議事項の協議を行い、次の通り答申することを承認した。

《諮問》＝東北教区常置委員会、および東北教区総会議長保科隆より

教規１０１条は「役員会の議長は、主任者たる教会担任教師またはその代務者をもってあてる。ただし、主任者たる教会担任教師またはその代務者がともに事故あるときは、他の教会担任教師または役員中から選挙する」と記されています。ここに記される「事故」あるときの事故はなにを意味しているのでしょうか。

《答申》

事故とは、議長であるべき者が、何らかの理由で議長としての職務を行うことができない事情がある場合、または意図的に行わない状態をあらわします。

その他に、総幹事の職務について、また、コロナ禍ゆえに各教区が直面している諸課題について、問い合わせがあり、意見交換を行った。

（田村　博報）

年金局より、お詫びと訂正

教団新報４９４８・４９号「年金局特集」に以下の誤りがありました。関係教区・教会にご迷惑をお掛けしましたことをお詫びいたします。

６面、２０２０年度「謝恩日献金」明細表中の「教区協力金」の数字のずれを左表に、また、８面、「下田教会／１００円献金３６００円」を「稲取教会」に訂正いたします。

教区名	教区協力金
北海道教区	340,000
東北教区	200,000
関東教区	500,000
東京支区	1,500,000
東北支区	
南関東支区	
西南支区	
北陸支区	
千葉支区	
京都府支区	400,000
奈良県支区	500,000
兵庫県支区	
四国支区	
九州沖縄教区	800,000
中会	218,700
中会	150,000
中会	700,000
中会	200,000
中会	50,000
合計	5,558,700

ひとときの人

半田　輝雄さん

神様がよしと言ってくだされば

明治時代、新島襄が安中へやってきた頃に曽祖父が受洗した。それ以来、代々続くクリスチャンホームで育った４代目のクリスチャン。原市教会の有志が設立した原市赤心幼稚園や日曜学校に通い、いずれ受洗してクリスチャンになるのは当然だという環境で育った。高校３年生の時に受洗。地元の群馬大学で一般教養を学び、医学部の受験資格を得た。一度目は落ち、もう１年間勉強して岩手医科大学医学部に合格した。偶然にもその年だけ苦手だった理数系の試験が課されなかった。

医学部在学中には日本基督教団下ノ橋教会に通い、日曜学校の補助をしていた。その後、ハンセン病や結核を研究する東北大学抗酸菌病研究所（仙台）で勤務。「ケセン語訳聖書」で有名な山浦玄嗣医師が勤務していた研究所であった。研究所に在籍中、医学博士号を取得した。

とくに強い意志や理由があって医師になった訳ではない。ただ、一番上の兄が医師になることを目指して仙台で学んでいたが、道半ばで病気にかかり逝去した。祖母から繰り返し兄の話を聞かされて育った。兄の跡を継ぐような形になったが、今考えると、神の摂理によって医師の道へと導かれたという感覚だ。

その後、群馬へ帰郷し国公立病院へ勤務の後に安中市原市に内科医院を開業した。30代で開業する医師がほとんどという中で、50代での開業であった。病院勤務では病院へ来る方しか診られないが、開業すれば患者さんの自宅を訪問し、家庭の状況も含めて全体的に診ることができる。開業に際しては、Ａ・Ｊ・クローニンの著書『人生の途上にて』の作中に登場する看護師の言葉「他の人がどう思うおうと、神様がよしと言ってくだされば」に背中を押された。89歳で現役。診療の傍ら、施設への訪問診療も行っている。

原市教会員、半田内科医院長

保育者は教会の宝

涌谷教会に受洗者が与えられ、信徒数が増えたと聞いて、礼拝に出たいと思った。この私の思いを涌谷教会に伝えると、説教をして欲しいとの依頼を受けた。

訪問に先立って涌谷教会役員からお手紙をいただいた。その中に「神様に愛される子どもは社会の宝、キリスト教保育を担う保育者は教会の宝」と書かれていて驚いた。教会が幼児施設を運営して行く上での見事な理念だ。涌谷保育園は教会と保育園が一体の関係で保育をすることで地域社会の信頼を得てきた。今17名の宝の保育者の一斉退職という衝撃の中にある。

礼拝の後、一斉退職をした職員と保護者の話を聞いた。涌谷保育園を愛し、子どもを愛し、涌谷保育園で働くのが誇りであった職員が退職せざるを得なかった話は涙なしには聞けなかった。保護者たちの失望と裏切られた怒りに教団の代表として頭を下げた。

涌谷教会の信徒たちは説教を涙しながら聞いていた。「あのことがあったから御言葉が心に大きな力として響いてくる。これほど御言葉が響く経験をしたことがなかった」と語る。教会は４、５名の礼拝を守っている。この苦難の中で「礼拝が全て。礼拝から」と語り「あなたは心を尽くし、魂を尽くして、あなたの神を愛しなさい」（申命記６・５）を心に刻みながら懸命に教会に仕える信徒たちだ。

（教団総会議長　石橋秀雄）